

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭57-162607

⑮ Int. Cl.³
 B 01 D 13/00
 B 29 D 7/22
 7/24
 C 08 J 5/18

識別記号
 1 0 4

厅内整理番号
 7305-4D
 7215-4F
 7215-4F
 7415-4F

⑯ 公開 昭和57年(1982)10月6日
 発明の数 2
 審査請求 未請求

(全3頁)

⑯ 水中に伸縮のないポリビニルアルコール透析膜及びその製造方法

枚方市楠葉朝日3丁目12-9

⑰ 発明者 渡辺純吉

京都市山科区西ノ宮大将軍町18

番地の1

⑯ 特 願 昭56-47763

⑰ 出 願 昭56(1981)3月30日

⑰ 発明者 北川清

⑰ 出 願人 ユニチカ株式会社

尼崎市東本町1丁目50番地

明細書

1.発明の名称

水中で伸縮のないポリビニルアルコール透析膜
及びその製造方法

2.特許請求の範囲

1. 30°Cの水中に浸漬したときの寸法変化率が
タテ方向及び横方向とも10%以下で、30°Cの
カ性ソーダ水溶液の透析係数が $5 \times 10^{-4} \text{ cm}^2/\text{sec}$
以上であることを特徴とするポリビニルアルコール透析膜。

2. 重合度1000以上、ケン化度98モル%以上
の実質的に無定形のポリビニルアルコールフィルムを水分率5~25%に調整し、タテ及びヨコ
方向とも1.2~1.5倍の範囲で2軸延伸し、温度
130°C以下、60°C以上で熱処理することを特徴
とする、30°Cの水中に浸漬したときの寸法変化
率がタテ方向及びヨコ方向とも10%以下で、30
°Cのカ性ソーダ水溶液の透析係数が 5×10^{-4}
 cm^2/sec 以上であることを特徴とするポリビニル
アルコール透析膜の製造方法。

3.発明の詳細な説明

本発明は常温の水中ではほとんど伸縮を示さず、
かつ透析速度の大きいポリビニルアルコール（以下PVAと略す）透析膜及びその製造方法に関するものである。

PVAフィルムは親水性が大きいため、水中に溶解または乳化あるいは懸濁した物質を透析、浄過等の手段によって分離するための隔壁として使用される。例えばレーヨン製造工程におけるアルカリ回収用ダイヤライザー、電池セパレーター、人工臓器等である。

しかしながら、PVAフィルムには吸水によつて寸法変化するという性質があり、従来においてはこの傾向がひとつの難点であった。例をあげるとレーヨン製造工程で、強アルカリ廃液からカ性ソーダを回収するためのダイヤライザーである。この装置には従来バーチメント紙が透析膜として使用されてきたが、この紙は水中での強度が低いため、強度の大きなPVAフィルムの方が性能的にはより適している。そのためPVA無延伸フィ